



HJ★STARS

本庄小学校をはじめ、小牧市近隣の体育館にて活動しています!!

活動日：土日＆祝日

WEBサイトのカレンダーを参照



WEB SITE

LINE公式アカウント



Instagram



見違えるほど成長しましたね」と当時を振り返り、その選手のことを河村ヘッドコーチが教えてくれました。

違う学校の児童が交じるチームでコミュニケーションを取り合い、日々の練習を始め、小牧市のスポーツ振興会が開催するイベントなどへの参加を通し、地域の方との接点を持つ中で皆がそれぞれの成長をしています。

ある子は責任感が育ち練習を欠席しなくなったり、物静かなある子は積極的に友だちと関わる外向性を手に入れたりと感受性豊かな年頃だからこそその成長をみせてくれているそうです。

スポーツマンシップのこのつとった礼儀や気持ちの良い挨拶、また挑戦の心などを、子どもたちはドッジボールを通して身につけるのです。

「小学生公式ドッジボールクラブ」

HJ★STARS

WE'RE ALL FOR ONE

小牧市を拠点に活動している小学生公式ドッジボールクラブ「HJ★STARS(エイチジェイ・スターズ)」。彼らの結成は十数年前のある出来事がキッカケでした。ドッジボールを通じて子どもたちの成長を見てきたチームが考える、競技スポーツとしての魅力を伺ってきました。



監督代表 佐竹 一宏 さん



ヘッドコーチ 河村 欣治 さん



コーチ 草野 慎介 さん



元・ドッジボール選手が今後は増えていくか?!

チームスローガンは『一心榮勝(いっしんらくしょう)』。みんなで心を一つにし、楽しくドッジボールをすることで、最後はみんなで勝ちに行くことを目標にするという意味が込められています。

今年3月に開催される全国大会に向けて、まずは2月の県予選が控えており、6年生はこの大会を最後に小学生ドッジボールを引退します。

チームを卒業後、ほとんどの児童はなにかしらの運動を続けます。身に付けた基礎体力でこれまでのOB・OGのように各々のフィールドで活躍していくことでしょう。

「小学生がメインのスポーツのイメージがありますが、将来的にもやって損のないスポーツです。誰でも気軽に参加しやすいので、子どもたちの思わぬ可能性が広がるきっかけになると



まさかの意外な出来事

チームの結成秘話を公開

「約10年前、ひよんなことから地域のドッジボール大会に出場しようということになり、保育園の年中だった当時の子どもたちが集まりチームが出来ました。それがHJ★STARSの始まりです」

今回取材を受けていただいたHJ★STARSの監督兼代表の佐竹さんは、当時を振り返りチーム発足の話をしてくれました。

「その大会で小牧市内の幼稚園の女子だけのチームと試合をしたところ敗北。みんな悔しいわって話になり、来年も出ようということになったんです」というのが結成秘話。

悔しさをバネに立ち上がったチームは、今では22名の小学生が集まるチームとなり、卒団メンバーはOB・OGとして今でもサポートに参加しています。

読者のみなさんは愛知県は全国的にもドッジボールが盛んな地域だということをご存知でしたか? 全国では都道府県毎に10チームほどがある中で、愛知県内にはなんと50ものチームが活動し、全国大会に向けて切磋琢磨しています。

「気軽に参加しやすいように」と河村ヘッドコーチ。「クラスに必ずいるドッジボールが上手な子は、是非ウチのチームに挑んでみてください」と草野コーチもメッセージをくれました。

「気軽に参加しやすいように」とチーム運営も掛け持ちは承認しています。基礎やチームプレーを育むよいスポーツです」と最後は佐竹監督も話してくれました。

多くの子どもたちが経験したことのあるドッジボールは、競技として打ち込むことで心身ともにの成長へと繋がっています。今後あらわれる小牧のメジャーなスポーツ選手が、実はドッジボール経験者からの転身ということも増えていくかもしれません。経験が大きな影響を与える小学生の時期だからこそ、チームプレーと基礎体力が得られるHJ★STARSの活動が、これからの小牧のスポーツ界の礎になっていくのかもかもしれません。



子どもたちが見違えるほど成長していく

競技スポーツとしてのドッジボールは試合時間が5分間、味方同士のパス回しは5回まで、その回数以内に敵への攻撃をしなければならぬというルールが遊びのゲームとは大きく違う点となります。

「この5分間の攻守の交代や行き交うボールの動き、目まぐるしく変わる場面転換がドッジボールの魅力ですね」と話すのは草野コーチ。

チーム一丸となっている練習風景には、時に笑顔で、時に真剣な表情で、大きな声を出し取り組む子どもたちの姿があり、その楽しさや魅力が伝わってくるようでした。

ドッジボールを経験し、大人になっても代表を目指し技術を磨き続ける人もいれば、中学以降、新たな競技に挑戦して目覚ましい成績を残す子もいます。

過去にチームで活躍し、キャプテンとしてチームをまとめ上げたある選手は、のちにハンドボールで全国大会に出場するほどの活躍をした例もあります。

「最初はシャイであり話さなかった印象ですが、キャプテンという役目が人を育てるのか